

防災意識を高め、災害時支援体制の強化を求める特別決議

2024年元旦に能登半島を襲った大地震は、多くの命や多くの住民の日常生活を奪いました。NHKの緊急番組内に手話言語映像が差し込まれたことは、これまでの私たちの取り組みにNHKが応えた証であり一歩前進と評価します。しかし、元旦放送のNHK手話ニュースは放送休止となり、手話言語で情報を取得する機会が失われてしまいました。ろう者にとって手話言語で情報を得ることは、命を守るために何よりも必要なものです。私たちは全国の仲間と共に速やかにNHKの要望を出しました。全国の仲間が危機感を強め一致団結し取り組んだものであり、私たちは仲間の大切さを強く感じました。

東日本大震災時、多くのきこえない人が防災行政無線などの音声情報が得られずに命を落とされました。障害のない人に比して死亡率が平均二倍という状況でした。私たちは、このような悲劇を繰り返さないために、災害時の情報アクセシビリティの整備を幾度も要望してきました。

能登半島震災でも地元の仲間たちは、被災地支援に一生懸命取り組んでいます。私たちはこの地域の仲間たちの頑張りに敬意を払い、私たちができうる限り長く支援を続けていけば、被災地の早い復興と、災害時に誰もが命を落とすことのない社会を実現できると確信しています。

南海トラフ地震等全国各地で大きな災害が発生することが予測されます。国民の一人ひとりが防災意識を高め、強固な災害支援体制を構築していくためには、強い組織力が必要です。私たちは下記の取り組みを行うことを決議します。

1. すべての地域が聴覚障害者救援地域本部を設立する。
2. 地域の防災計画・避難訓練に積極的に参画し、ろう者や手話言語の理解普及とともに音声情報から取り残されないよう視覚情報へのアクセスのあり方を、地域の実情に合わせ啓発していく。
3. 発災時、早急に状況把握・安否確認が行えるよう、地域行政との協定締結を進め、近隣の仲間たちとの連絡手段を確立する。
4. 防災に関する知識を深め、災害マニュアルを整備し、仲間たちと常に情報を共有し、災害が発生したら直ちに被災地支援ができる体制を整えておく。

以上、決議します。

2024年6月9日
第72回全国ろうあ者大会